

『保健の課題学習から発表へ』

—プレゼンテーション能力の向上を求めて—

保健体育科 川崎 繁次・野村いずみ・鈴木 清貴

本校体育科では平成9年(1997)より課題学習を保健の授業に取り入れている。平成10年(1998)からは第1学年において研究レポートから模擬授業への試みとして、個人レポートの作成と3～4人グループによる模擬授業を実施した。その詳細については本校『高校教育研究第52号』を参照されたい。現在は第2学年において課題学習によるレポート作成と個人でのプレゼンテーションを実施している。

キーワード：課題学習 プレゼンテーション 相互評価

1 はじめに

本校では平成10年度から平成13年度までの4年間、1年生の保健の時間を使ってグループによる課題学習と模擬授業を実施してきた。教師主導による一斉授業を年度前半に行い、後半の保健で課題学習を実施した。当時は第2・第4土曜日が休日で授業の実施される第1・第3土曜日に2時間の保健を実施し、平日の1時間の保健と合わせて最大3時間の保健を行っていた。時間数に余裕があってレポートの作成や中間発表、模擬授業などを円滑に進めることができた。

平成14年度入学の本校56回生から完全週休2日制が導入されて、保健の授業は1年生で1単位、2年生で1単位が履修されることとなった。平成14年度は1年生での課題学習が一旦中止されることとなった。

2 課題学習から総合的な学習へ

平成15年度より「総合的な学習の時間」を利用して本校保健体育科では、1年生の3学期に保健1単位と総合2単位の合計3単位を使い「健康と社会」と題した、課題学習から模擬授業への取り組みを再開した。1人1人が学習の課題を保健分野(健康問

題)から求め、資料の収集や、文献の研究などをもとに、科学的論理法に基づいて課題を研究することを目的としている。2学期の保健の授業時間を個人レポートの作成にあて、3～4人のグループごとに共通の課題を決定し、内容を分担してそれぞれでレポートを作成する。レポート完成後に異なるテーマのメンバーが集まって自分が調べた内容について中間発表を行い質問などを受け、発表までに修正を加えたり再度調べ直すようにした。

3学期には課題の内容をもとに各グループで40分の授業を行っている。発表では単にレポートの棒読みになることがないように注意し、発表時に生徒に配布するレジメを作成するようにさせた。つまり、生徒たちは各自の課題のレポートをまず作成しながら知識を増やし、それをどのようにクラスのメンバーに伝えるかという作業を行っている。

平成10年の開始当時のレポートはほとんどが手書きのレポートであったが最近ではパソコンを使用した原稿の提出を求めている。調べ方も以前の図書中心からインターネットによる検索が主流である。

生徒たちの感想からは、「準備が大変ではあったがクラスメートが顔をあげて聞いてくれているのがとても嬉しかった。」というものや、「聞いたことが

あるといった程度のテーマについて詳しく知ることが出来て良かった。」といったものなどがあつた。

発表の成否はテーマ選びが重要な要素であると思われる。なるべくタイムリーな話題を取り上げるようにして、内容に関してもあまりにも専門的すぎるものは避けるようにしたほうが効果的であると思われる。

総合的学習『健康と社会』による課題学習と模擬授業は平成15年度入学の57回生から平成18年度入学の60回生まで4年間にわたって実施された。

3 2年生での課題学習

完全週休2日制が導入された平成14年度入学の56回生は2年生になった平成15年度に個人単位での課題学習とプレゼンテーションを実施した。前述の57回生から60回生は1年生で総合的学習『健康と社会』によるグループでの課題学習と模擬授業を行い、2年生では個人での課題学習を行った。現在は2年生後半の保健で課題学習とプレゼンテーションを実施している。

4 テーマについて

研究テーマについては完全に生徒に任せるのではなく、教師側からいくつかのテーマを準備してそれらの中から生徒に選択させた。プレゼンテーションの時には同じテーマを集めて、いろいろな視点からテーマの理解を深めることが出来るように計画した。

平成15年度テーマ

- | | |
|---------|-----------|
| 1：脳死、移植 | 5：環境 |
| 2：アレルギー | 6：心の健康 |
| 3：DNA | 7：生活習慣病 |
| 4：感染症 | 8：ターミナルケア |

平成16年度テーマ

- | | |
|---------|-----------|
| 1：脳死、移植 | 6：生活習慣病 |
| 2：アレルギー | 7：ターミナルケア |
| 3：DNA | 8：生殖医療 |
| 4：感染症 | 9：高齢者医療 |
| 5：心の健康 | 10：食の安全 |

平成17年度テーマ

- | | |
|---------|---------|
| 1：先端医療 | 5：生活習慣病 |
| 2：アレルギー | 6：高齢者医療 |
| 3：感染症 | 7：食の安全 |
| 4：心の健康 | |

平成18年度テーマ

- | | |
|---------|---------|
| 1：先端医療 | 5：生活習慣病 |
| 2：アレルギー | 6：高齢者医療 |
| 3：感染症 | 7：食の安全 |
| 4：心の健康 | |

平成19年度テーマ

- | | |
|---------|---------|
| 1：先端医療 | 5：生活習慣病 |
| 2：アレルギー | 6：高齢者医療 |
| 3：感染症 | 7：食の安全 |
| 4：心の健康 | 8：廃棄物処理 |

平成20年度テーマ

- | | |
|---------|---------|
| 1：先端医療 | 5：生活習慣病 |
| 2：アレルギー | 6：高齢者医療 |
| 3：感染症 | 7：食の安全 |
| 4：心の健康 | 8：廃棄物処理 |

レポート作成やプレゼンテーションの成功を決める条件として、テーマの決定が大きく影響する。自分が興味関心のある事は勿論だが、なるべくタイムリーな話題の方が聞いてくれる生徒の関心も当然高くなる。したがって、テーマ設定についてはなるべく

くタイムリーな話題を取り上げてレポートを作成するように指導している。

例えば感染症などでは、当時の社会状況を反映するように、『狂牛病』『サース』『鳥インフルエンザ』『結核集団感染』『新型インフルエンザ』などのテーマが取り上げられた。また、食の安全では『残留農薬問題』などから『食品偽装問題』などへとテーマが変化している。

約8本の大きなテーマを設定して課題学習をスタートしているが、保健・医療に関する問題は何かの形でどこかのテーマに関係している。したがって生徒たちは自分の興味関心のある具体的な問題をまず考えた上でレポートの作成にあたるのが肝心である。

5 実施時間数とその内容

本校では教育実習が9月に実施されているので、10月から2月にかけて課題学習を実施している。平成20年度の実施状況は、各クラス14時間を充てた。レポート作成に4時間、発表に10時間を配分した。10月は主にレポート作成、11月、1月、2月が発表ということになる。12月、3月は学期末試験などのためにほとんど時間を確保できないが、時間数がどうしても不足する場合は特別時間割の中に入れてもらうことは可能である。

1時間当たりの発表人数は4人が限界であると思われる。実施時間の関係で5人で実施したこともあったが、コメントを書く生徒の集中力低下やまとめの時間などが慌たしくなる。

(平成20年度2学年保健課題学習)

1:ねらい

- ・自分や社会の健康にかかわる事柄に問題意識を持って、課題を見出し解決することができるようにする。
- ・プレゼンテーションを工夫して、自己の課題内

容をクラスメートに理解してもらう。

- ・他の人の発表を聞いて、内容の理解に努めるとともに、的確に評価できるようになる。

2:期間と時数

10月～2月 約14時間

3:学習計画(内容と方法)

(1) テーマ選択による個人レポートの作成

(2) テーマ別発表

① 発表(レポート報告)約8分

発表者はレジюме(B4版1枚)を用意する。

② 司会(教師)が4本の発表内容の違い(立場・主張)についてクラスから質問や意見を受け話し合う。

③ 『授業者への質問・コメント』用紙と『評価カード』を全員が記入する。

(3) 学習のまとめ(全員の発表終了後)

6 生徒による相互評価

発表者以外の生徒には質問・感想・意見を記入する用紙を配布して提出させている。これは、教師側で一旦確認した後に発表者に渡している。発表者はそれぞれの質問に、出来る範囲で回答を記入して再度教師に提出する。教師が確認後に発表者に返し、発表者からクラスメートに戻すようにしている。40枚位のコメントに返事をするようになるが、約1週間の期間を設けているので時間的な余裕はあるようだ。発表後の感想からも、クラスメイトから感想やコメントをもらうのはなかなか楽しいようであった。

あわせて以下の6項目について4段階評価を実施している。

評価項目

- 1:テーマについて実証的論理的に追及している
- 2:テーマについて理解が深く、自分の考えを表している
- 3:専門的な知識や情報が多く、初めて知ることがあった

- 4：レジュメのまとめ方が優れており，わかりやすい
- 5：課題の探究に意欲が感じられる
- 6：発表（プレゼンテーション）に工夫があつて分かりやすい
- 最終的な評価については，24点満点の生徒による相互評価の集計と教師による採点を考慮のうえ総合評価を行っている。

7 学習のまとめより ～（2年A組）～

- 1：レポート作成について
- ① テーマ選択とタイトル決定の理由
- ・生活に密着している（2）
 - ・身近にその疾患の人がいた（6）
 - ・自分にプラスとなる
 - ・以前から疑問だった（3）
 - ・真実が知りたかった（2）
 - ・流行しているので知りたかった
 - ・興味があつた（11）
 - ・図書館の本で面白そうだった
 - ・最近話題になっている
 - ・有名でも知らないから
 - ・調べがいがありそう
 - ・マスコミに人気がある
 - ・話題性がある
 - ・議論になっている
- ② レポート作成で難しかったこと
- ・テーマが広すぎて（深すぎて）絞りにくかつた（7）
 - ・文献やインターネットの資料が少なかつた（15）
 - ・資料は，専門用語等が多くて調べにくかつた（12）
 - ・倫理感等に及ぶためもとめにくかつた（8）
 - ・授業時間（4時間）が足りなかつた（9）

- ・まとめ方が難しかった
- ・言いたいことが多くて絞りにくかつた
- ・深くてきりが無い
- ・わかりやすく理解してもらうこと
- ・要点が絞りにくい
- ・発表時間が少ない

③ レポートに満足していますか

- ・満足している（15）
- ・ふつう（10）
- ・残念なところがある（14）
- 他の人と似ている
- 資料が少なく内容が薄かつた
- やっているうちに内容がだんだん変わった
- 資料が古かつた
- 専門的な知識が少なかつた
- 図を入れるべきだつた

2：発表について

- ① レポートや資料を整理してまとめることができましたか
- ・できなかつた（3）
 - ・あまりできなかつた（2）
 - ・できた（17）
 - ・大変よくできた（16）
- ② 聞く人に理解してもらつたと思ひますか
- ・できなかつた（3）
 - ・あまりできなかつた（5）
 - ・できた（24）
 - ・大変よくできた（8）
- ③ 聞く人を引き付ける工夫をしまひましたか
- ・できなかつた（4）
 - ・あまりできなかつた（8）
 - ・できた（18）
 - ・大変よくできた（10）

- ④ レジュメは満足のいく仕上がりでしたか
- ・できなかった (1)
 - ・あまりできなかった (10)
 - ・できた (13)
 - ・大変よくできた (16)
- ⑤ 発表後の質問で、わからないことは再度調べましたか
- ・できなかった (2)
 - ・あまりできなかった (1)
 - ・できた (13)
 - ・大変よくできた (22)
- ⑥ 発表に関して一番難しかったことは何でしたか
- ・質問にきちんと答えること
 - ・焦ってかみまくった
 - ・10分以内で収めること
 - ・愛想良く話すこと
 - ・時間の使い方
 - ・話したいことがたくさんあって、削ること
 - ・時間が余った
 - ・人にわかるように話すこと
 - ・わかりやすく説明すること
 - ・レジュメの工夫
 - ・時間を埋めること
 - ・どこに重点をおくか
 - ・時間制限が厳しかった
 - ・緊張と時間
 - ・時間を10分に合わせること
 - ・限られた時間で何を主に伝えるか、絞り込みをすること
 - ・難しい言葉をできるだけ使わないようにしたこと
 - ・レポートの内容を少し削ってまとめたこと
 - ・レジュメを作成すること
 - ・みんなにすべてを伝えること
 - ・調べきれなかったこと。判断が難しい病気であること
- ・レジュメをいかにわかり易くし、どこまで発表するかということ
 - ・いかにわかり易く説明するか
 - ・時間が無い
 - ・緊張しないようにすること
 - ・時間が多すぎる
 - ・時間内にどれだけのことを伝えられるか
- 3:『発表後の質問・感想・意見』の手応えは、どうでしたか
- ・調べ直し、考え直すことが多かった
 - ・難しい質問をする人が多くて、答えるのが大変でした。いい感想が多かった
 - ・複雑な質問をたくさんしたのに、誠意を持ってみな答えてくれた
 - ・鋭い質問や意見があっって、調べ直すことでより確かな知識をものにできた
 - ・質問で考え直す、調べ直すことも多くなってよかった
 - ・感想をもらえることはとても嬉しかった
 - ・大勢の人が興味を持ち、意見を持ってきていたので、自分の苦勞が報われたと思った
 - ・みんなが考えてくれていた
 - ・みんなも興味があるんだなと思った
 - ・みんなが自分の発表でわかってくれていたと思うと嬉しい
 - ・よくわかってくれた人、聞き流していた人とは分かれた
 - ・難しい内容だが、伝わったような気がする
 - ・自分のレポート内容は薄かったなと思った
 - ・聞いてくれていたのだと思って、よかった

4: 次の学年が実施するために、どのような授業の改善を行ったらよいか、アドバイスを書いて下さい

- ・大体この形式でいいと思います
- ・同じテーマの人どうして打合せをする時間が欲しかったです。同じことを繰り返し言っているだけという発表も少なくなかったと思います
- ・今のままでいいんじゃないって思いました
- ・発表と発表の間に、評価や意見、感想を書く時間がほしかった
- ・興味のあることを調べられてよかったです
- ・テーマの自由度はもっと大きい方がよいと思う。発表の時間は、もう少し長くてもよいと思う
- ・同じテーマの発表者の間で打合せがうまくいかず、かぶることがあった
- ・特に悪いところは見つかりません
- ・大体今のような感じで良いと思う
- ・感想が手元に残ると嬉しい
- ・発表のテーマをもっと充実させた方が良い
- ・1回の授業の中で、テーマをばらばらにするなるべく参加型の発表にする
- ・やりやすかったと思います
- ・テーマごとに話し合いを設ける。何を発表するか話し合う。テーマでリハーサルを行うのも良いと思う
- ・評価を書く紙が2枚もあると、それを書くことに集中してしまって、発表があまり聞けなかった
- ・レポートの作成時間を増やす
- ・似たような内容になってしまう人が何人かいたから、そこを何とかする
- ・情報の一方的な流れのような気がした。一つ一つの話題に対してディベートを深めればよい
- ・発表時間を長く。もう少しテーマを増やしてほしかった
- ・今年の中でよいと思います

8 まとめ

レポート作成の時間を増やしてほしいという意見も多々見られるが、授業時間数の関係からなかなか現在の時間数（4時間）を越えることは難しいのが現状である。なかなかテーマが決まらずに時間を浪費してしまうケースが多いようだ。以前は家庭においてインターネットを使用できる環境が無い事も多かったが近年ではかなり普及しており、テーマが決まればわりと順調に進めることができるようになった。しかし、情報の信憑性の問題や単なる貼り付けだけで終わってしまうのも問題である。そういう意味でもプレゼンテーション時におけるレジュメの作成は非常に大きな意味を持っている。いかにわかりやすくクラスメイトに情報を伝えるか、また発表者自身がより円滑なプレゼンテーションを行うための資料として無くてはならないものである。

限られた時間内ではあるが、生徒達の興味関心のあるテーマを設定し、更なるプレゼンテーションの向上を目指しながら、有意義な時間を共有していきたい。

2 学年保健課題学習評価用紙

月 日 曜 テーマ『 』 2年 組 番 氏名

1 = よくない 2 = いま一步 3 = よい 4 = たいへん良い

	発表者 タイトル 『 』	発表者 タイトル 『 』	発表者 タイトル 『 』	発表者 タイトル 『 』
1：テーマについて実証的論理的に追求している	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4
2：テーマについて理解が深く自分の考えを表している	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4
3：専門的な知識や情報が多く、初めて知ることがあった	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4
4：レジュメのまとめ方が優れており、わかりやすい	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4
5：課題の探究に意欲が感じられる	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4
6：発表（プレゼンテーション）に工夫があって分かりやすい	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4	1 - 2 - 3 - 4

合計 ()

合計 ()

合計 ()

合計 ()

発表者には敬意をもって、必ず質問か感想・意見を書きなさい。後日、返答が来ます。

①質問・感想・意見	《		さんへ》
《出席番号		氏名	》

②質問・感想・意見	《		さんへ》
《出席番号		氏名	》

③質問・感想・意見	《		さんへ》
《出席番号		氏名	》

④質問・感想・意見	《		さんへ》
《出席番号		氏名	》